

## 外科臨床実習(クリニカルクラークシップ)に参加させていただいて

弘前大学医学部医学科5年 山崎 慎一

6月の1ヶ月間、三沢市立三沢病院の外科にて臨床実習をさせていただき大変お世話になりました。5年生は基本的に弘前大学医学部附属病院にて実習しているのですが、今年度から一部期間を市中病院で実習できることになりました。このことから、私は東北地方でも有数の最新型の手術支援ロボット(da Vinci Xi)が導入されており、また在学中にお世話になった先輩が研修医をされている三沢市立三沢病院での実習を今回希望しました。なお、三沢市にも今回初めての訪問となりました。

実習では病棟や手術、検査などについて、事前の訓練と指導医監修の元で様々な手技や経験をさせて頂くことができました。手術では虫垂炎や胆嚢結石症といった Common Disease(誰でもなりうるありふれた病気)の手術から最新型の手術支援ロボット(da Vinci Xi)を用いた大腸癌の手術まで幅広い症例を経験することができました。また、三沢米軍基地病院の先生との共同手術に入る機会もあり、英語でやりとりされる姿はとても格好良く感じ、「やっぱり英語を勉強せねば」とモチベーションが上がりました。

病棟では2名の患者さんを受け持ちさせていただき、患者さんの日々の体調をお聞きし、身体所見(心音や呼吸音など)を調べてカルテにまとめることで、病気や病態、その背景について理解を深めることができました。また、患者さんが入院し、手術をして退院するまでの一連の経過を経験することが出来ました。

私は普段からその分野における距離感(各要素がどのくらいの距離でリンクしているのか)を大事にしているのですが、どのくらいの規模の手術だとどのくらいの日数で患者さんが退院できるのか、そのときの患者さんの様子や表情はどうか、食事はいつから止めて、いつから再開するのか、何を食べるのかなどの術前・術後管理について実際を経験することで、教科書を読むだけでは掴めないような、いわば現場感覚を掴むことができたと思います。

また、とてもコミュニケーション良く、明るい雰囲気がありながらもきっちりと仕事が進んでおり、チーム医療のお手本を見ることができましたし、これがプロフェッショナル集団だと感じました。対応の難しい患者さんとのやりとりやアンガーマネジメント(怒りの感情と上手につきあうための方法論)についても非常に勉強になりました。

これまで私は外科の雰囲気には少し苦手意識を持っていたのですが、今回の実習が始まってみると、市中病院の外科は私が子供の頃からイメージしていた医師という姿にかなり近いものがあると気づかされました。現在、日本では外科医の成り手が減少しています。労働時間が長いという点が主な理由です。実際に実習でも先生方は朝から晩まで手術をし、そこから病棟業務や書類仕事をこなすという日があり大変な印象を受けました。その一方で、苦しそうな患者さんが手術によって徐々に回復し、元気になって退院していく姿を見ると、非常にやりがいのある仕事だと思いました。

実習以外では、夕方には野球チームの練習に参加させていただいたり、自転車(ロードバイク)を持参してきたので週末はおいらせ町の牧場風景の中を走ったり、酸ヶ湯経由で弘前に戻ったりと充実した日々を過ごすことが出来ました。また、6月末にはちょうど American day が開催されていたため、三沢米軍基地内でアメリカの救急車や消防車の見学、CHARLEYS PHILLY STEAKS(日本国内未出店!)でサンドイッチを堪能するなどプチアメリカ旅行をすることが出来ました。

1ヶ月という短い期間でしたが半年ぐらいいたのではないかとというくらい濃密な時間を過ごすことができました。様々な症例を経験することで技術的にも人間的にも成長できたと思います。また6年次に実習させていただければ幸いです。



外科の松本先生、池永先生、久保先生には大変お世話になりました。大変お忙しい中、熱心にご指導いただきありがとうございました。また、医局の先生方、研修医の樽澤先生、佐々木先生、東2病棟の看護師のみなさま、手術室スタッフのみなさま、事務のみなさまなど大変お世話になりました。多忙な日々かと思いますがお元気でお過ごしください。ありがとうございました。

以上

実習期間:2019年6月3日～2019年6月28日